

I. 実践園・実践活動の概要

・実践園の概要(園児数・特徴 など)

滝川市の特徴:

北海道のほぼ中央部、石狩川と空知川の合流点にあり、札幌と旭川を結ぶ空知の中心に位置している。気候は内陸性気候で、気温は4月から10月まで平均14℃、11月から3月まで平均-5℃、夏は過ごしやすい気候である。(雪は11月末から4月初めまで降り、最深積雪は110cm程度)

・平成元年に健康都市宣言をし、市民一人一スポーツを奨励。

・グライダーを活用したスカイスーツに取り組んでいる。

・子どもたちが遊びながら学習することができる施設として、昭和61年に美術自然史館、平成2年に川の科学館、平成3年にこども科学館、平成15年に市民プール(流水)を設置している。

(公共スポーツ施設):滝川スポーツセンター(体育館・会議室・放送室)、滝川市青年体育センター(体育館・会議室・放送室)、陸上競技場、市民プール、野球場、テニスコート、アーチェリー場、弓道場、B&G海洋センター等

(園等の運動施設):登り棒1基、ジャングルジム2基、滑り台1基、ブランコ4基、鉄棒3基、ぶらさがり棒1基、シーソー1基、砂場、小体育館

(スポーツクラブ等):総合型地域スポーツクラブ→1団体318人、スポーツ少年団→4団体 152人

(スポーツ関係事業):コスモスマラソン、ゴルフ教室、水泳教室、スケート教室、スキー教室、ウオーキング、野球教室、元気アップ教室、10人11脚競技

実践園	対象園児数(H19年度)								実践園の特徴		
	3歳児		4歳児		5歳児		計		定員	保育時間(平日)	国公立
	男	女	男	女	男	女	男	女			
おおぞら幼稚園			18	14	16	11	34	25	70	8:45~13:15	公立

※6歳児は5歳児に含む

・実践活動の概要

<実践活動の目的>

●実践テーマ「心もからだも元気アップ ～運動の楽しさを 家庭や地域に広げよう～」

●ねらい・趣旨

- ①楽しんで体力の増進を図る。
- ②幼児に様々な運動遊びを体験させる。
- ③幼児の運動習慣の大切さを広める。
- ④保護者を含めた地域全体の幼児に運動の体験を広める。

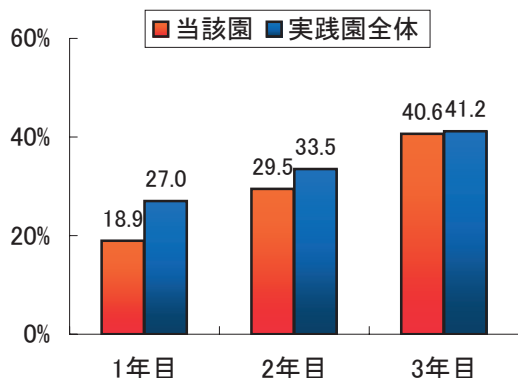
II. 効果のあった実践活動の狙いとポイント

実施プログラム名	体育館でケンケンパ
趣旨・目的	幼児たちが日常両足で跳ぶ機会が少ないため、園生活の中で両足で跳ぶ機会をつくり、立ち幅跳びや両足連続跳び越しがスムーズにできるようにする。
対象者	全園児(4歳児男女・5歳児男女)
実施内容及び方法	両足で跳んだり、ケンケンパなどができるよう体育館にラインを付ける。
期待される効果	①両足で連続に跳ぶことが上手にできる。 ②立ち幅跳びなどで手足の動作がスムーズに行える。 ③跳ぶ、はねる時に床を蹴る力が上手になる。
検証方法	立ち幅跳びや両足連続跳び越しの数値の変動を見る。

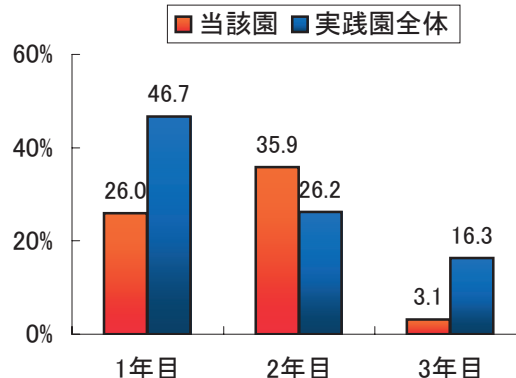
Ⅲ. 実践活動の成果

ケンケンパと関連する「立ち幅跳び(跳ぶ動作)」についてみると、基本的動作が習得できていない(1点)幼児の比率が1年目26.0%、2年目35.9%から3年目には3.1%までに減少していた。それに伴い、立ち幅跳びが4点以上の幼児の比率が1年目18.9%、2年目29.5%、3年目には40.6%と伸びていた。また、「両足連続跳び越し」についても4点以上の幼児の比率が1年目34.0%、2年目23.7%から3年目には65.6%まで上昇していた。

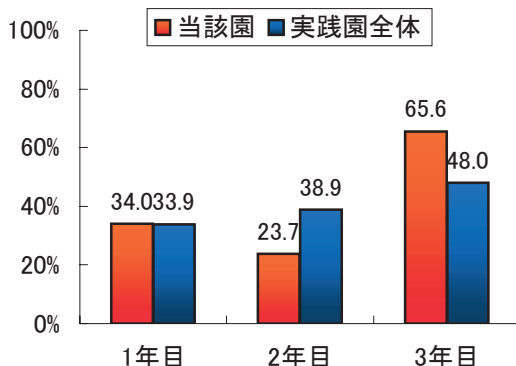
運動能力調査:「立ち幅跳び」の得点
◆「4点以上」の比率



基本的動作の調査:「跳ぶ動作」の得点
◆「1点」の比率



運動能力調査:「両足連続跳び越し」の得点
◆「4点以上」の比率



保護者コメント

- ①園で行う遊びを家でも繰り返して行うようになった。
- ②体を動かすようになった。



実践園
担当者コメント

- ①登降園時や体育館から教室に行くときに、何も言わなくても全員が必ず跳ぶようになった。
- ②子どもだけでなく保護者も一緒に体を動かすようになった。特に休日に家庭で運動するようになった。
- ③子ども同士で上手にできない子を助ける(コツを教える)ようになった。(自ら進んで行っていた。)



高等教育機関
担当者コメント

幼児は、両足で跳ぶなどの基本動作が身に付いてきた。教員は、基本動作及び運動能力アップのため、園での運動遊びで両足跳びやケンケンパなどができるよう体育館にラインを付けるなど、新たな工夫が見られた。(連携機関: 國學院大學北海道短期大学部)

I. 導入計画の立案

・実施計画

- ①最初は、園の先生たちが体育館から教室に戻る途中の床に、ビニールテープで7本のラインを付ける。
- ②一定の期間後に体育館に、ケンケンパができるように四角い囲いをビニールテープで付けて連続動作を身に付けさせる。

・準備作業(※必要な設備・資材・作業人員・作業期間 等)

必要な設備	体育館や体育館の出入口付近で床にテープを貼ることができる場所
必要な資材	ビニールテープ(10m巻 6本 色2種類)
必要な作業人数	2人(1人でも可)
作業期間	設置作業時間:10分程度。 実施期間:1年間通して行う。

・全体的なスケジュール(※おおまかなスケジュール)

- 4月 7本の線を床に張り、両足跳びの仕方を教える。
- 5月 全員に両足跳びをさせ、人の跳び方を見せる。上手にできない子には、指導し、練習をさせる。
- 9月 新たに体育館に四角い囲いをビニールテープで作成し、ケンケンパの仕方を教える。
- 10月 全員にケンケンパをさせ、人の跳び方を見せる。上手にできない子には、指導し、練習をさせる。
- 11月 自由に跳ばせる。ケンケンパの数や片足と両足の順番などを変えた新しい四角い囲いを作る。

II. 導入手順

ステップ1: 実施方法の検討

幼稚園や保育所などの先生たちで実施方法を検討する。

ステップ2: 線の引き方の検討、幼児の指導の仕方

どのような線や囲いにするかは子どもたちの上達に応じて検討する。指導の際は幼児が後ろに転ばないようにする。

ステップ3: 保護者への告知

園だよりや会合で子どもたちの様子を伝える。

ステップ4: 導入と園生活への組み込み

日常生活で気軽に、自由にケンケンパが行えるようにする。(教室や体育館への出入り時にできるような場所にラインを設置する)

Ⅲ. ラインを使った運動の実施例



Ⅳ. 導入にあたっての留意点(※プログラム実施上のコツ・注意点・リスク管理 等)

<p>コツ</p>	<p>①体育館や体育館と教室の間の必ず通る床に設置する。 ②日常自由にできるようにする。 ③上達状況によって線の幅や四角の並び方を変える。</p>
<p>注意点</p>	<p>①最初の指導時に、遊んでいるときに後ろに転ばないように幼児に注意を促す。 ②周りに転んだときケガするものがないか注意する。 ③ラインは必ず通る体育館の出入口付近に付ける。</p>
<p>リスク管理</p>	<p>①ビニールテープなので、はがれてくるため、適宜チェックする。 ②幼児が後ろに転ばないように指導しているときに留意する。</p>